

国土技術政策総合研究所コンプライアンス・アドバイザー委員会 議事概要
(令和6年度 第2回)

○開催日時 : 令和7年1月29日(水) 15時10分～16時10分

○開催場所 : 三田共用会議所

○出席委員

委員長	義経 百合子	弁護士
委員	石倉 毅典	公認会計士
委員	長井 宏平	北海道大学大学院 教授
委員	森本 章倫	早稲田大学 教授

(委員は五十音順)

○議事概要

(1) 令和6年度国土技術政策総合研究所コンプライアンス推進計画実施状況(中間報告)について

【主な意見、質問及び回答】

- ☐ コンプライアンスと発注者綱紀保持関係の研修については、どの程度重要度のある研修なのか。当日欠席で受講できなかった者に関しては、資料を配付し周知徹底したということだが、きちんと受講したかどうかのフォローアップも含めてやっていくべきではないか。
- ご指摘も踏まえ、発注者の持つべき姿勢や法令遵守についてうまく全体に浸透できるよう取り組んでいく。

【総評】

- 研修の内容、重要度によって受講範囲を検討したり、フォローアップしながらこのまま進めていただきたい。

(2) 国土技術政策総合研究所発注業務に係るコンプライアンス違反及び再発防止について

【主な意見、質問及び回答】

- ☐ 職員にはまずはルール of 徹底、研修等を通じて理解を深めてもらうよう取り組んでほしい。次の段階として、上司に相談しても明確な回答がもらえなかった際の受皿を組織として検討いただきたい。
- 現状でも管理部門で対応しているが、強化も含めて努力する。

- 国総研のコンサルタント業務はかなり積算が難しいと思うので、担当者は困っているのが実態にあるのではないかと。研究室長などには若手は聞きづらいということもあるので、サポートできる体制作りとして、総務など別部署で相談できる体制やテスト形式で学ぶなど環境作りに配慮いただきたい。
- 部分見積を徴収することは手続きとして認められているということだが、どこまでが部分で、部分を二つ重ねたら部分ではなくなるのかなど、部分と全体の違いを明確に示されていると理解して良いか。
- 全部マニュアルに事細かく書いているが、上司からアドバイスをするというところがうまくいかなかった部分がある。
- ルールはきちんと作るが、それを補うような仕組みがない限りは狭間に入った職員は悩んでしまう。そういうことも議論していただきたい。
- 不正調査で組織風土自体が調査対象に入るときは、調査のプロセスでアンケートを実施したりする。大変ではあるが、そういったことも検討されたい。

【総評】

- 再発防止策で記載したことの具体化を図り、その後間に合う部分は推進計画にも反映していただいたうえで、実施状況などこの委員会にて報告、共有いただきたい。

(3) 令和7年度国土技術政策総合研究所コンプライアンス推進計画（案）について

【主な意見、質問及び回答】

- 議事2の資料で講習会や研修での再発防止策の反映がフォローアップも含め、できているとのことだが、推進計画の中にもフォローアップを確実に図るという一文を付け加えていただきたい。
- 国総研の業務が他の国交省の業務と比べてもかなり特殊だと思うので、マニュアルが国総研の業務発注の形態を考慮したものになっているかを機会があれば確認いただきたい。

【総評】

- 議事2で報告のあった事案について、項目としては推進計画に入っているのではないと思う。当委員会の設置の趣旨にも推進計画の不断の見直しと取組の強化とあるように、議事2の報告の具体化や検証などを通じて推進計画の見直しや調査などを進めていただきたい。